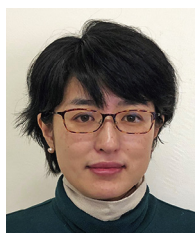


自分を見つめながら、それでもあきらめずに



萬代恭子

京都大学大学院工学研究科合成生物化学専攻
[615-8510] 京都市西京区京都大学桂
博士研究員, 博士(工学).
専門は有機合成化学, 触媒化学.
mandai@sbchem.kyoto-u.ac.jp

このような場に恐縮しつつもここに導いてくれた友に感謝しながら私事を綴りたいと思います。

現在まで研究に携わることができているのは、大変な幸せで、要所要所でのありがたい出来事のお陰です。私は、優秀、まじめといった形容詞からはほぼ遠い人間です。今化学の研究の道にいるのは、普段あまり会話をもたなかった父が話す科学の話がとても面白かったこと、そして、心の中に広がる世界が原子の構造によく似ていたことがきっかけです。ここに研究のこと、仕事のことを格好良く書ければいいのかなと思います。ところが実際は、とても悔しいことに、心にひっかかるものを見つめなくては化学に向き合うことができず、多くの時間とエネルギーを自分を見つめることに費やしてきました。大学を卒業したのだから奇跡的なもので、「再試を受けなさい！」という先生からの一言があったのでした。それなのに、あきらめきれずに大学院にも進みました。なんで私はあきらめないのかと考えてみたら、私が目指す真理の追求ということが、心を見つめることにも研究にも共通していたからなのです。本当に大事なことは何かを見つめようとする姿勢、逃げない姿勢、学問も日常も人間がかかわることすべてがつながっているのだ、と教えてくれたのは母です。そして、男性も女性も同じ人間で、やりたいことに区別はないという感覚ももらいました。親の影響力は大きいものです。

さて、SPring-8の高エネルギー X線を使う分析を中心とした研究で大学院の修士課程を何とか修了した頃、夫がポスドクでアメリカに行くことになり、それをきっかけに結婚して私のほうが行く気満々で渡米しました。そこでもありがたいことに夫のボスに気にかけてもらい、ラボで研究員として働くようになったのですが、実は化学の中でも一番嫌いだった有機化学の研究室でした。しかし、嫌いなままも嫌だと思い「やります！」と即答したのが、有機化学の分野に入った最初でした。その当時の頑張りによってボスから「学位をとったらどう？」と言っていたので、最終的には単独での生活を乗り切って二つ目の修士号を取ることができました。そして、

日本に戻ってきて夫が働く大学の同じ学科でプロジェクト付きの研究員になり、最終的には夫と同じ研究室に入って長らくお世話になりました。その間に当時の上司の理解のお陰で息子3人が生まれ、3人目が生まれる直前に公聴会をして何とか博士号も取得しました。そして、現在お世話になっている永木愛一郎先生には頭が上がらない日々です。常に葛藤しめげそうでもあきらめずに来られたのは、夫と子供たち、研究でお世話になっている方々のお陰です。夫は今では私が泊りがけの出張でも子の面倒を見ますし、子供たちは寂しいと言って泣いたりもせず、日々自分の世界を謳歌してくれています。こうなることを狙っていたとはいえ大変ありがたいです。働く女性の方はそれぞれ、仕事、自分のこと、家族のこと、家事、子の成長など抱えることの中で悩みながら日々を戦っていて、悩んでいるのは私一人ではないと励まされます。でも、場面場面に応じて頭と心を切り替えるのは難しく、オートマチック車のギアのように、すぐに切り替えられたらなあと思います。非常勤だったこともあり、子供達は皆生後2カ月から保育園に預けましたが、毎度しばらくは心身ともにしんどかったです。3人目出産後待機児童が問題になっている時期にも運良く皆保育園に入れたのですが、一時期兄弟で別々の保育園かつ小学生となった子の放課後児童クラブも合わせると仕事終わりに3カ所に迎えに行っていた時期もありました。とにかく毎日続けられるようにするための体調管理、帰宅後は次の日のために早めに寝るよう時間を逆算して夕飯、入浴、親子の時間……。自分自身精一杯頑張りつつもやはり周りからの貴重な支えのお陰で今に至っています。それでも孤独を感じるくらいですから甘くないのだと実感しています。最近、心のことから解放されてほぼ自分を取り戻していると同時に、研究の厳しさも改めて認識しています。こんな私でも、許される限り、可能な限りあきらめずに感謝しながら望む道を進んでいけたらと思っています。わが子を含む子供たちの未来のためにも、人間と自然を大事にしながら発展する社会となることを切に願います。